

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890200037
法人名	社会福祉法人 興風会
事業所名	グループホーム ステラ
所在地	愛媛県今治市大西町紺原1166番地 1
自己評価作成日	2011・11・18

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員を対象に年間を通じた勉強会を実施し、介護の基礎固めを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>神社やお寺参りが好きな利用者を、近所の方達が集まる念仏講に参加できるよう支援されている。足の状態もあり、床に座ることは難しいため、職員がイスを持って一緒に参加をされている。若い職員が台所に立たれる時には、利用者が気を利かせてくださるようで、料理を教えてくださいと、調理を一緒にしてくださいと。法人内での異動や職員の入れ替わり等もあり、事業所ではこの一年間、事業所内研修の充実を図り、すべての職員で介護の基礎を勉強できるような体制を作られた。同じ研修内容を日時を変えて複数回行い、職員が研修を必ず受けられるようにされている。又、入浴介助についても、利用者一人ひとりについて介助方法を具体的に勉強して、職員間で知識や技術が共有できるようにされている。又、事業所では、職員で話し合うことを大切にされており、相談しながら日々取り組みをすすめておられる。月替わりで「行事担当」の職員があり、楽しい行事を提案して職員で協力し合っって利用者の笑顔がみられるように取り組まれている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ステラ

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 吉井 恵美子

評価完了日 23年 11月 18日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念の意識付け・実践の為フロアの目につきやすい ところに掲示している他、朝礼での復唱を行っている。また、 ユニットごとにも月目標・日々の目標が設定されており、事業 所の理念の復唱後共に確認を行っている。	
			(外部評価) 「共に笑顔であんきな生活」と事業所理念を作成して、朝礼 時に職員で復唱し、理念を共有されている。又、管理者はケ アの場面を捉えて、職員が行っているケアが理念に沿って いるかということ、職員自身で確認できるように話しておら れる。ホーム長は、職員が「利用者に真剣になることで、利用 者に笑顔になってもらう。」「利用者に満足してもらえるような ホーム作りを目指していきたい。」と話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 近所の薬師堂での念仏講や奉仕作業に参加している他、保 育園からお招きいただいたり、行事訪問に来てくれたり交流 を図っている。ご近所からの来訪者も多く、野菜や果物・花・ 神社の祭事のお供物のおすそ分けを頂いたりしている。将 棋のお相手や地域の祭りなどに誘っていただいたり、お隣の 美容師さんも出張で来てくれている。	
			(外部評価) 今年も、年末の餅つきは、交流のある保育園の園児も来て、 庭で一緒に搗くようになっていく。ついたお餅は、地域の障 害者施設にもおすそ分けされている。運営推進会議のメン バーの方の紹介で、将棋がとてもお強い男性利用者の将棋 のお相手が数名来てくださっている。事業所は、認知症が重 度の利用者も受け入れておられることで、地域の中での信 頼度も高いようである。職員は、今後さらに地域の方達に事 業所の中をみてもらったり、一緒に楽しめるような機会を作っ ていきたいと考えておられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) お隣の美容師さんに入っていたり、近所の方が将 棋の相手に寄って下さったりした折、ホーム内の様子を感じ ていただくこと。又、日々、近くのマーケットに買い物に出掛け たりすることで、地域の方に、少しでも認知症の理解が得ら れるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>二か月に一回運営推進会議を開催し、事業所の活動を報告し、それに対する意見交換や、地域の情報をいただいたりしている。苦情や個人的な内容でその場で言いにくい事項に関しては終了後聞き取ることもしている。</p>	<p>管理者は「事業所の活動に意見をもらえるような会議にしたい」と考えておられる。又、ホーム長は、参加者の方達に、事業所があることで、「認知症になっても安心して地域の中で暮らせる」と思ってもらえるような会議にしたいと考えておられる。今後、テーマを決めて会議をすすめられたり、事業所の専門性を活かして、会議を通じて地域の認知症ケアの向上にも取り組んでいかれてはどうか。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>民生委員の方や市の担当者の方等も参加いただき、第2木曜の午後から会議を開催されている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行っておられ、事業所からは、行事や外出・畑での活動等を画像で報告されている。現在は、事業所からの報告の後、意見をうかがうようにされているが、「よくやっている」というような感想が多く、具体的な意見はあまり出されていないようである。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に参加して頂いている他、認知症介護に対するホームの取組みを理解していただくため情報や計画のやり取りを行っている。日ごろからもよく連絡を取り合っており、問題等にも相談させていただいている。</p>	<p>要介護認定に市の担当者の方が来られた際には、「ホームの雰囲気がいいですね」とほめてくださることもある。県の事業所団体が開催する研修にはよく参加をされており、又、相互研修時には職員が他事業所で実習を行い、他事業所との違い等から気付くこともあったようだ。</p>
			<p>(外部評価)</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>施設内外の研修、書籍等で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。どのようなことが虐待に当たるのか、それに対して通報する義務があるということやそれらが利用者にとってどれくらい悪影響であるかと言うことを意識付けることによって虐待やそれに近い言動を行わないよう注意している。</p>	<p>利用者の転倒があった場合には、その後に話し合いの場を持ち、原因を探り、反省会を行っておられ、ケアのさらなる向上を目指して取り組まれている。又、職員の利用者に対する言葉遣いについて、気になるような言葉かけ等がみられる時には、管理者はその都度、職員と話し合うようにされている。</p>
			<p>(外部評価)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内外の研修、書籍等で学ぶ機会を持ち虐待防止の意識を深めている。どのようなことが虐待に当たるのか、それに対して通報する義務があるということやそれらが利用者にとってどれくらい悪影響であるかと言うことを意識付けることによって虐待やそれに近い言動を行わないよう注意している。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部研修にて学んだものを施設内研修、資料回覧などで学ぶ機会を持っている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には質問しやすい雰囲気づくりを意識し丁寧に説明をするよう心がけている他、資料などを用意し介護保険や施設利用に対し解り難い説明にならないように配慮している。解約時にも今後の不安などが少しでも軽減されるよう、その後が困らないように相談になるなどしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様においては日々の関わりの中から、思い・要望を汲み取るような対応を行うようこころ掛けています。ご家族様に於いては面会時には出来るだけゆっくりと話を伺えるような場をつくり意見を聞き出せるよう日ごろの関わりも含め努力をしています。	
			(外部評価) 管理者は、ご家族の来訪時に個別にゆっくりお話しすることに取り組みされており、ご家族の現在の思い等を聞いておられる。ご家族からいただいた意見をきっかけに、接遇面の取り組みを考える「スマイル工場(向上)委員会」を設けられて、担当職員が中心となって勉強会等を行っておられる。職員で話し合い、2ヶ月ごとに発行する「のんき新聞」には、行事やお誕生日時の写真が満載で、新人職員の紹介等も載せておられる。又、最後のページには、ご家族に向けて担当職員から、利用者ご本人の日頃の様子等のメッセージを書くようにされている。今後さらに、のんき新聞を用いてご家族に知っていただきたいような情報を発信されたり、ご家族とのコミュニケーションのきっかけとなるような工夫をされてみてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 新しい取り組みの採用や決定、従来のシステムの見直しなどは全体・各フロアミーティングにてスタッフの意見・提案を反映しおこなわれるよう配慮している。ステラがどのような介護を目指しているのか、ステラが向かっていく目標は何なのかなどは随時話し合っている。	
			(外部評価) 法人内での異動や職員の入れ替わり等もあり、事業所ではこの一年間、事業所内研修の充実を図り、すべての職員で介護の基礎を勉強できるような体制を作られた。同じ研修内容を日時を変えて複数回行い、職員が研修を必ず受けられるようにされている。又、入浴介助についても、利用者一人ひとりについて介助方法を具体的に勉強して、職員間で知識や技術が共有できるようにされている。又、事業所では、職員で話し合うことを大切にされており、相談しながら日々取り組みをすすめておられる。月替わりで「行事担当」の職員があり、楽しい行事を提案して職員で協力し合って利用者の笑顔がみられるように取り組まれている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一年間を通し自己課題を設定してもらい、それに対し年二回の管理者面接、年一回のホーム長面接を行っている。その結果は実績・勤務状況も考慮したうえ、昇給額に反映させたり、役職を新たに付けるなど、やりがいがある職場になるような取り組みを行っている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勉強会をホーム内で定期的に行っている他、法人外の研修についても出来るだけ積極的に取り組んでもらっている。事務所に研修案内を張り出して告知している他、研修費の法人負担、休みの優遇などを行っている。法人が指名して赴く研修については出張費・交通費・研修費用負担をおこなっている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者・職員は外部の研修や相互研修などにて、交流を図り、他事業所の情報の中から自施設にそぐうものを取り入れてサービス向上に役立っている他、他事業所に対し行事などの招待や、遊びに来てください等の声かけを行っている。秋祭り・春祭りには職員と共に遊びに来てくださったり、またこちらから出かけており、交流を楽しんでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人とゆっくり関わる時間を持ち、暮らしの希望・不安を推し量るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時には十分に話し合う時間をとり、ご家族の思いを受け止め、少しでも不安が軽減出来るよう努めている他、制度や施設について解らないことはないかの聞き取りも行っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時の話し合いの中から、支援の見極めを行うよう努めている他、隠れた緊急のニーズがないか、見落としはないかをアセスメントしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は日々の利用者様の労をねぎらい、利用者様もスタッフをねぎらう・共に支えあうという共有感をもって暮らしている。共にここにいてよかった、ここに住んでよかったと思えるよう利用者職員一丸となって生活を楽しんでいる。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 適宜ご家族様に相談・連絡を行い、共にご利用者様の支援を行うよう努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前の友人・近所の方も気軽に来園されている。ご家族で支援の難しい方にはホームより墓参りなども行っている。 (外部評価) 神社やお寺参りが好きな利用者を、近所の方達が集まる念仏講に参加できるよう支援されている。足の状態もあり、床に座ることは難しいため、職員がイスを持って一緒に参加をされている。若い職員が台所に立たれる時には、利用者が気を利かせてくださるようで、料理を教えてくださいと、調理を一緒にして下さるようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	レク・家事等生活の中でそれぞれが関わり合う機会を多くもち、孤立気味のご利用者様にはスタッフが仲立ちをし、良い関係がもてるよう支援に努めている。
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	入院の為退所された方には、利用者と共に入院先に見舞に行くなど、病気になっても、入院していてもつながっている、繋がっていける関係作りを行っている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などからの情報のもと思いの把握に努めている。
			(外部評価)	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	ご本人との普段の会話や、面会時のご家族の話などから情報収集し暮らし方等の把握に努めている。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	その時々的心身の状態の把握に努め、その時々の有する能力の見極めをするよう配慮している。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>できるだけご家族・本人参加のもと各スタッフが「支援のためのシート」を持ち寄り、検討し合っている。その人らしさを引き出せる計画を立てられるよう研修も行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々の担当職員が、ご本人が生活で困っていることについてピックアップして、原因を探り、支援について考えるためのシートを作成されており、それをもとにカンファレンスで話し合い、3ヶ月ごとに介護計画を作成されている。ご本人がお好きなことや趣味等を行いながら身体機能の維持向上できるよう計画を立てておられたり、利用者話し合い「手足が動きやすくなるとトイレに行きやすくなる」等、ご本人が目的を持って取り組めるよう計画されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録・日誌・申し送り等で情報を共有している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>母体である幸風園のカラオケルームの利用やデイサービスでの琴・踊りなど行事に参加している。又、希望があれば少人数での外出にも対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の希望のかかりつけ医を受診している。 当施設の協力医療機関からは毎月往診がおこなわれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 個々の希望のかかりつけ医を受診している。当施設の協力医療機関からは毎月往診がおこなわれている。 (外部評価) ご家族が病院受診に付き添われる時には、介護要約とケアチェック表を持参できるよう用意されている。調査訪問時、昼食後に、皮膚科を受診する利用者に職員が同行されている様子がみられた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日常的に併設事業所の看護師に情報を伝え、適切な看護・受診が行われている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 早期の退院に向け、主治医・御家族との情報交換を行い密な連携に努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 見取の指針を作成し、説明し御家族と終末期について十分な話し合いを持ったうえ、支援している。 (外部評価) 入居時には終末期のことについて、「事業所で最期まで支援することは可能である」ことをご家族に伝えて、ご家族の意向をお聞きしている。ご家族からは「その時にならないと分からない」というような返答も多いようで、事業所では利用者の状態の変化時等を捉えて、ご家族と今後のことについて話し合うようにされている。利用者やご家族が事業所での支援を希望される場合には、「ご家族の協力が必要である」ことを伝え、医療機関や訪問介護とも連携して支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会、書籍回覧等にて学習を重ね、ミーティングや事故対応検討の折など適宜再確認している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を年二回おこなっており、隣接の住宅には避難経路も含め協力体制ができています。	
			(外部評価) スプリンクラーが設置されている。この一年では、火災を想定した避難訓練を1回実施されており、地域の方達にも参加していただいた。 事業所は川の近くにあり、川の高さより低い場所に立地していること等、地理的な心配事もあるようだ。運営推進会議時等の機会に、地域の方等からお話をお聞きしながら、地区の自主防災組織等とも協力し合って、さらなる安全に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。又、事業所独自でも、職員が経験を重ねることができるよう避難訓練を計画を立てて取り組んでいかれることが期待される。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に一人ひとりの尊厳を意識した、声かけ・対応に努めている。その人ごとの受け入れやすい声かけについて毎月のミーティングなどで検討している。	
			(外部評価) 利用者の個性や性格を受け入れ、個々がその人らしく暮らしていけるような支援に心がけておられる。調査訪問時、男性の利用者が自主的に台所に立って洗い物等をしてくださる横で、職員は利用者の動きをみながら一緒に行っておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご家族からの情報や御本人との普段からの会話のから、その思いを引き出すよう、また、したいことを表せるよう意識した声かけをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 就寝・起床・入浴・食事等できるだけ、思いのまま過ごせるよう配慮している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝の化粧・髭そり等の整容、行事等の外出時にはそれにあつたおしゃれができるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 普段の関わりの中、ご家族の情報などから食事の好みの把握に努め、買い物に出かけたときに食べたいものを買ったりし、一緒に準備・片付けをしている。 (外部評価) 朝・昼食は、法人から出来上がった食事が届くようになっていいる。調査訪問時、魚がお好きでない利用者には肉料理に変えられていた。夕食は、利用者と食材の買い物等に出かけて、手作りされている。職員によって出来具合も個性がみられるようであるが、利用者の調理へのかかわりや食欲が高まるようである。調査訪問時、献立表を職員が読み上げてくださったが、焼き物の魚や青菜の煮物の青菜の名前が分からないようなこともあった。定期的に法人の給食委員会が開かれ、事業所からも利用者からの感想や意見を言う機会はあるが、職員は利用者と同じものを食べる機会はあまりないようだ。各自がお弁当やパンを持参して、利用者と同じテーブルで食べておられた。	日々の食事について、「楽しむ支援」という観点から、さらに事業所で工夫できることはないだろうか。事業所で食事作りする機会を増やす等して、利用者が持っている力を発揮できる場面を増やしたり、職員も一緒に同じものを食べながら「共に笑顔」になれるよう、支援を工夫してみてもどうか。この機会に、法人も含めて検討されてみてほしい。たとえば、利用者それぞれの家庭料理や懐かしいような料理・郷土料理や季節感のある料理等を、利用者やご家族・栄養士の方等にも協力やアドバイスをいただきながら、作ってみても楽しいのではないだろうか。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 職員は個々の利用者様の食事・水分量の把握ができており、どのようなものが利用者様にとって喜ばれる食事であるか本部の栄養士並びにステラの栄養士資格保持者にも指示を仰ぎつつ献立を考えている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、個々に応じた口腔ケアを支援し、口腔状態を把握、適宜歯科受診もおこなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表・表情・動作から、排泄パターンの把握に努め、排泄の自立にむけた支援をおこなっている。おむつから紙パンツへ、布パンツへといった取り組みをしている。	
			(外部評価) 食事の前後や外出前等、タイミングをみながら声かけや誘導を行ってられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 職員は便秘の原因や影響を理解し、できるだけ自力で排便できるよう、運動・食事・タイミング等の工夫をしている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 概ね午後が入浴の時間になっているが、希望にあわせどの時間にも入浴できるよう支援している。 基本的に本人の習慣・意思にて入浴されている。 気のあう方との入浴も楽しまれている。	
			(外部評価) 午後から入浴される方が多いが、利用者の希望で夜間、寝る前に入浴される方もいる。又、入浴を嫌がるような利用者もおられるが、利用者の気分が良い時に、どのような時間帯であっても、ご本人の「入浴したい気持ち」を優先して支援されている。浴室には富士山の絵を貼ってお風呂場の雰囲気を作ったり、バラを浮かべて入浴されるようなこともある。脱衣所は洗濯場と一緒にいるため、洗剤や備品等も多くあって、やや乱雑感も感じられるが、職員は、脱衣所の雰囲気作りについても利用者が入浴を楽しめるような雰囲気となるように工夫したいと話しておられた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご本人の習慣の継続を意識し、そのリズム・その日の体調にあわせて休息してもらっている。 眠れない利用者様に対し無理に就寝を勧めたりせず満足がいくまでご自由にお過ごしいただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 介護記録のファイルに処方箋をとじており、服薬の変更時には申し送り・記録の徹底をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人ごとのしたいことを把握し、実行できるよう支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日ごろの会話から希望を聞き出すよう心がけ、日々の外出先を決めている。現在のところ、地域の方には外出時同行等の協力得られてないが散歩のときには挨拶をいただいたり、安全な歩行の協力をいただいている。	
			(外部評価) 近くの念仏講への参加や、日々散歩に行かれている。外出時の服装を選んだり、お化粧される方もあり、調査訪問日の前日には、大型スーパーのフードコートで好きなものを選んで食事をされた。利用者は、ラーメンや焼きそば等の麺類を選ぶ方が多かったようだ。季節に応じてぶどう狩りやお花を見に出かけられたり、法人の施設でカラオケを楽しまれることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 少額ではあるが利用者様はお小遣いをお持ちになっている。そこから日用品や、嗜好品のなど買い物もされている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご本人が自ら書かれた手紙や代筆した手紙を家族・友人に送ったり、御家族の面会時に手渡したりしている。事業所からの電話連絡の折にはご利用者様にも取次し、会話を楽しんでいただけるよう配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとにフロアの装飾を変えており、心地よさを感じる飾り付けを心がけている。その時期の花を飾ったりすることで季節感を取り入れている。	
			(外部評価) 職員のアイデアで、竹を切って来られ、利用者と道具を手作りして廊下を使って流しそうめんをされたこともある。又、居間では小規模多機能の利用者も一緒に運動会を行われ、玉入れやパン食い競争等、3チームで競われた。居間にはテーブルが複数置かれていて、又、ソファもあり、食後はソファでくつろいでおられる方もみられた。台所は、フラットな対面式カウンターキッチンで、利用者は食後にご自分の食器を下げたり、食事作りにかかわりやすいような造りになっている。昼食後は窓を開けて空気の入替えをされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロアにはソファ・テーブル・椅子を多数配置し、疲れた時や休みたいときいつでも休めるようコーディネートしている。見守りがしやすい場所だけではなく内緒話も自由に心おきなくできるようなあえて死角に入る休息場所も作っている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた家具等の持ち込みを勧めている。ベッドやタンス等はそれぞれ好みに配置して頂いており、家族様の写真を飾られている利用者様も多い。	
			(外部評価) 居室の窓からは山の木の色やみかんの熟れ具合等もよく見えて、テーブルとイスを置いて本を読んだり書き物をされたりする方もおられる。暑がりの方には、かけ布団を調節できるようにバスタオルと薄手のかけ布団、足元にも一枚掛け布団を用意して調節できるようにされていた。加湿器を使用している方もいる。職員は、利用者と一緒に掃除をされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各所に手すりを設置、階段も狭めにとり左右の手すりが使えるように工夫している。 居室内は適宜身体の機能にあわせ、家具の配置を工夫し安全にかつ自立した生活が送れるよう配慮している。	